

めぐみイエス・キリスト教会

2018年7月29日(日) 第五主日礼拝
週報「通算第416号」



2018年標題聖句

使徒の働き27章22節～26節

《「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、命を失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。』》

第一主日礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二主日礼拝	毎週日曜日	午後6時～6時45分(8月から)
聖書研究・祈祷会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2018年7月29日(第五主日礼拝)午前10時～11時

司会 鈴木 竜実 牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏始祈】

【賛美Ⅰ】 新聖歌225「罪の汚れを」 p. 342

【交読文】 No.7 詩篇第23篇 p. 884

【賛美Ⅱ】 新聖歌343「罪に満てる世界」 p. 546

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.2 「あなたと共にいつまでも」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書15章1節～2節(新約p. 193)

【祈 禱】

【説 教】 《ぶどうの木のとえ》 鈴木 竜実 牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌291「神の国と神の義」 p. 465

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

【聖書箇所】 ※ヨハネの福音書15章1節～2節

15:1 「私はまことのぶどうの木であり、私の父は農夫です。

15:2 私の枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。」

●ポイント1 イエス様の十一使徒たちへの約束とは？

※ヨハネの福音書14章18節～19節「私は必ず戻って来る」(新約p.192)

14:18 「私は、あなたがたを捨てて孤児にはしません。私は、あなたがたのところに戻って来るのです。

14:19 いましばらくで世はもう私を見なくなります。しかし、あなたがたは私を見ます。私が生きるので、あなたがたも生きるからです。」

●ポイント2 「ぶどう園の農夫のたとえ」から学ぶことは？

※マタイの福音書20章1節～16節「あとの者が先に～」(新約p.36上段)

●ポイント3 イエス様が話された「ぶどうの木のとえ」の真意は？

※ローマ人への手紙11章17節～22節「使徒パウロの理解」(新約p.281)

11:17 もしも、枝の中のあるものが折られて、野生種のオリーブであるあなたがその枝に混じってつがれ、そしてオリーブの根の豊かな養分をともに受けているのだとしたら、

11:18 あなたはその枝に対して誇ってはいけません。誇ったとしても、あなたが根をささえているのではなく、根があなたをささえているのです。

11:19 枝が折られたのは、私がつぎ合わされるためだ、とあなたは言うでしょう。

11:20 そのとおりです。彼らは不信仰によって折られ、あなたは信仰によって立っています。高ぶらないで、かえって恐れなさい。

11:21 もし神が台木の枝を惜しまれなかったとすれば、あなたをも惜しまれないでしょう。

11:22 見てごらんください。神のいつくしみときびしさを。倒れた者の上にあるのは、きびしさです。あなたの上にあるのは、神のいつくしみです。ただし、あなたがそのいつくしみの中にとどまっていればであって、そうでなければ、あなたも切り落とされるのです。

※ヨハネの福音書15章4節「主イエス様のご命令と願い」(新約p.193)

「私にとどまりなさい。私も、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、私にとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。」

◎先週のメッセージの概要【この世を支配する者】

《今回は、新改訳聖書と現代訳聖書を比較しながら考えたいと思います。「私は去って行き、またあなたがたの所に来る。」では、イエス様がこのままだこかに行かれるような感じですが、「私はこの世を去ってから、また、あなたがたの所に帰って来る。」では、イエス様が死なれることを明確にしています。「その事の起こる前に」「それが起こった時に」これは十字架を示しています。「私は、もう、あなたがたに多くは話すまい。」これは誤訳です。これですと、イエス様は、もう弟子たちには話したくない、と言う意味に取れてしまいます。しかし現代訳では、「私はもう、余り多くのことを言うことができません。」となっており、弟子たちに話したくとも、話せる時間がもう私には残されていない、と言う意味で、その理由は、この世の支配者である悪魔が、私を捕らえようとして来るからである、と言われているのです。

イエス様は、ここで「この世を支配する者」と言われましたが、これは真実です。四十日における荒野の試みにおいて、悪魔はイエス様に、瞬く間に世界の国々を全部見せて、こう言ったのです。「この国々のいっさいの権力と栄光とをあなたに差し上げましょう。それは私に任されているので、私がこれと思う人に差し上げるのです。ですから、もしあなたが私を拝むなら、すべてをあなたのものとしましょう。」悪魔は、アダムからそれを奪い取ったのです。

そして最後の晩餐において、イエス様がイスカリオテのユダに、パン切れを浸し、与えられた時に、サタン(悪魔)本人が彼の中にはいったのです。

そしてこの後、ユダはヨハネ・マルコの家から出て行きます。それ故、ユダの中に入った悪魔自身が、ローマ兵や民の指導者と長老たち、パリサイ人や律法学者を引き連れて、イエス様を捕らえにやって来るのです。

確かに、悪魔はこの時までは、「この世を支配する者」でした。しかし、イエス様が十字架にかかれ、血潮を流され、死んで下さった時に、大逆転が起きたのです。イエス様は、最初の人アダムが持っていた権利をすべて取り戻し、そして十字架において、悪魔の持つ力をすべて打ち壊されたのです。》

◎お知らせ

1. 次回第1主日礼拝は、8月5日(日)午前10時からと午後6時からです。祈祷会は8月1日(水)午後6時15分です。8月22日(水)はお休みとなります。
2. 鈴木師は、8月7日(火)下妻朝祷会で奏楽と特別賛美伴奏を担当します。